

「2016年タイ・チューラーロンコーン大学サマープログラム参加報告書」

京都大学文学部2年 清水 来奈

① 今回の派遣プログラムを通し、タイにおける仏教からの影響と日本文化からの影響を強く感じました。タイ文化は、そのあらゆる面において仏教が色濃く影響していることが大きな特徴と言えるでしょう。あまり海外へ行った経験がなく無宗教の自分は、普段の生活の中で宗教の影響を感じる事がなかったのですが、今回タイに行ったことでそうした宗教がひとびとの生活や人生にまで大きな力を及ぼしていることを実感することができました。今後もこうしたプログラムの参加や留学を視野に入れているのですが、国際理解において「宗教」は切っても切り離すことのできない問題であり、少なくとも自分が訪れる国の宗教についてはしっかり学習しなければならないと思いました。今後、宗教を取り扱う講義を履修しようと考えています。また、日本文化がタイ文化に与えている影響について、主にアニメやキャラクターに関する影響が際立っています。タイの若者の多くは日本のキャラクターのものを身につける傾向が強く、大型のショッピングモールに行くと日本のアニメキャラクターのグッズを扱う店をよく目にします。また、自分の最終プレゼンテーションの準備を通して発見したことの一つに、タイのTVで放送されるアニメ番組の多くが日本のものであるという事実がありました。こうした状況を目にして、改めてアニメ大国としての日本が海外に与えている影響を感じたと同時に、日本のアニメが発展していった経緯や歴史について深く調べたいと思いました。

② タイでの経験で強く心に残っているのは、交通整備の問題です。タイでは交通に関する規制は比較的緩く、日本に比べ運転のスピードが速いという特徴があります。横断歩道はほとんどなく、タイミングを見計らって道路を渡らねばなりません。またトゥクトゥクやモーターサイなどの公共交通機関も安全面に問題があります。どれも日本では考えられないような経験であり、日本における安全な交通事情を実感しました。二つ目に、ネット環境について述べたいと思います。大学と寮外では無線LANが使用できなかったため、タイでは全体を通してネットを使うじかんが少なかったです。しかしそれでも不便だと感じることはほとんど無く、普段自分がどれだけ必要以上にネットを使用していたかを知ることができました。

③ このプログラムはタイ語の授業に加え、タイの歴史や文化に関する講義、チューラーロンコーン大学での英語授業への参加がありました。タイ語の授業は情報量が多く大変だと感じることもありましたが、授業内容が面白く、タイでの生活に実際に役に立てることができたのでよかったです。タイの歴史・文化の授業では古代から現代に関する内容まで幅広く学ぶことができ、とても興味深かったです。大学の授業参加は、自分の英語能力では少し理解できない部分もありましたが、滅多にできない経験ができて大変よかったですと思います。

④ 先にも述べましたが、このプログラムを通して日本のアニメーション・映像技術の高さを再認識しました。もともと映像は自分の興味のある分野のひとつだったので、これからもっと詳しく研究していきたいと思えます。また、東南アジアの文化に触れたことで自分のアジアに対する興味、他のアジアの国々の文化にも触れてみたいと感じたと同時に、やはり自分は西洋の文化・特に英語圏の文化が好きなのだと改めて感じ、将来は英語圏の文化の中に身を置いて暮らしたいと改めて感じました。